

町民のみなさまのご意見をお聞かせください

庄内町立小・中学校の地域における役割に関するアンケート調査票

庄内町教育委員会では、児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化[※]に対応しながら、児童・生徒がより良い教育環境で学ぶことができるようにするために、2021年12月に「庄内町学校適正規模・適正配置審議会（以下『審議会』）」を設置し、「20～30年後を見据えて、より良い学び（学校生活）ができる持続可能な学習環境をつくる」を審議の基本方針とし、「庄内町立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置に関する方針」について検討しております。

※児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化の状況については、2～4ページをご覧ください。

審議会では、保育園・幼稚園・小中学校の保護者、小・中学校校長会の代表者、各学校運営協議会の代表者と学識経験者等で検討を進めていきますが、学校は災害時の避難施設としての役割や学校開放等による地域活動の拠点としての役割もあることから、幅広い町民のみなさまの考え方や意見を把握し、審議会での議論を充実させることを目的として、本アンケート調査を実施することにいたしました。

本アンケート調査の対象として、20歳以上の町民のみなさまの中から1,000人を無作為に抽出し、回答をお願いしております。

調査は無記名であり、すべて統計的に処理するため回答者が特定されることはありません。また、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのままをご回答ください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の主旨をご理解いただき、ぜひ調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

2022年6月

庄内町教育委員会

■ご記入いただくうえでの注意点

- ① 回答は、各設問の枠の中からあてはまる選択肢について、該当する選択肢に○（まる）をつけてください。また、質問によっては文章をご記入ください。
- ② 回答に迷う場合には、回答者の方の考えにできるだけ近いものをお選びください。
- ③ ご記入いただいた本調査票は、返信用封筒に封入して切手を貼らず●月●日（●）までにポストに入れてくださいますようお願いいたします。
- ④ アンケートに関するお問い合わせは、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【問い合わせ先】

庄内町教育委員会 教育課 教育総務係
電話：0234-43-0126

(参考1) 児童生徒数の推移と将来推計について

庄内町の児童生徒数（詳細は下表参照）は減少が予想されています。

2017年度 小学生 1,009人
 (平成29年) 中学生 571人
 合計 1,580人

2028年度 小学生 687人 (2017年度比: Δ32%)
 (令和10年) 中学生 419人 (2017年度比: Δ27%)
 合計 1,106人 (2017年度比: Δ30%)

通常学級については、現在、余目第三小学校（3学年のみ）と余目中学校以外は全ての学年で単学級（1クラス）編制となっています。将来的にもこの状況が続くものと予想されることから、児童生徒の教育環境について、長期的な視点で検討する必要があります。

庄内町立小中学校 児童生徒数推移(令和4年5月1日現在)

年度	学年	余目第一小学校	余目第二小学校	余目第三小学校	余目第四小学校	立川小学校	計	余目中学校	立川中学校	計	小中計
2017年度 (平成29)	1年	42	33	31	14	19	139	155	31	186	
	2年	37	30	39	26	41	173	154	35	189	
	3年	42	42	38	26	34	182	163	33	196	
	4年	39	33	42	27	39	180				
	5年	48	37	39	24	33	181				
	6年	29	29	36	29	31	154				
	計	237	204	225	146	197	1,009	472	99	571	
2020年度 (令和2)	1年	29	36	40	19	25	149	145	40	185	
	2年	44	35	29	16	23	147	149	32	181	
	3年	25	32	37	28	27	149	120	31	151	
	4年	42	33	31	15	18	139				
	5年	39	31	40	28	42	180				
	6年	42	42	37	27	35	183				
	計	221	209	214	133	170	947	414	103	517	
2022年度 (令和4)	1年	26	32	31	24	15	128	138	40	178	
	2年	32	33	31	24	23	143	150	36	186	
	3年	30	36	39	18	25	148	146	40	186	
	4年	42	34	27	17	25	145				
	5年	27	32	35	28	26	148				
	6年	40	34	30	14	19	137				
	計	197	201	193	125	133	849	434	116	550	
2025年度 (令和7)	1年	33	31	26	18	16	124	120	25	145	
	2年	35	26	37	20	23	141	122	26	148	
	3年	36	29	20	17	28	130	118	19	137	
	4年	26	32	31	24	15	128				
	5年	32	33	31	24	23	143				
	6年	30	36	39	18	25	148				
	計	192	187	184	121	130	814	360	70	430	
2028年度 (令和10)	1年	27	24	18	12	15	96	113	15	128	
	2年	20	20	17	19	15	91	120	23	143	
	3年	25	25	24	15	16	105	123	25	148	
	4年	33	31	26	18	16	124				
	5年	35	26	37	20	23	141				
	6年	36	29	20	17	28	130				
	計	176	155	142	101	113	687	356	63	419	

※2025年度以降人数は令和4年4月1日時点の住民情報システムデータより、住民登録数値のため各学校在籍者数との相違があります。

庄内町の人口ビジョン

平成27年の国勢調査によると、本町の総人口は21,666人で、これまで減少傾向で推移してきました。

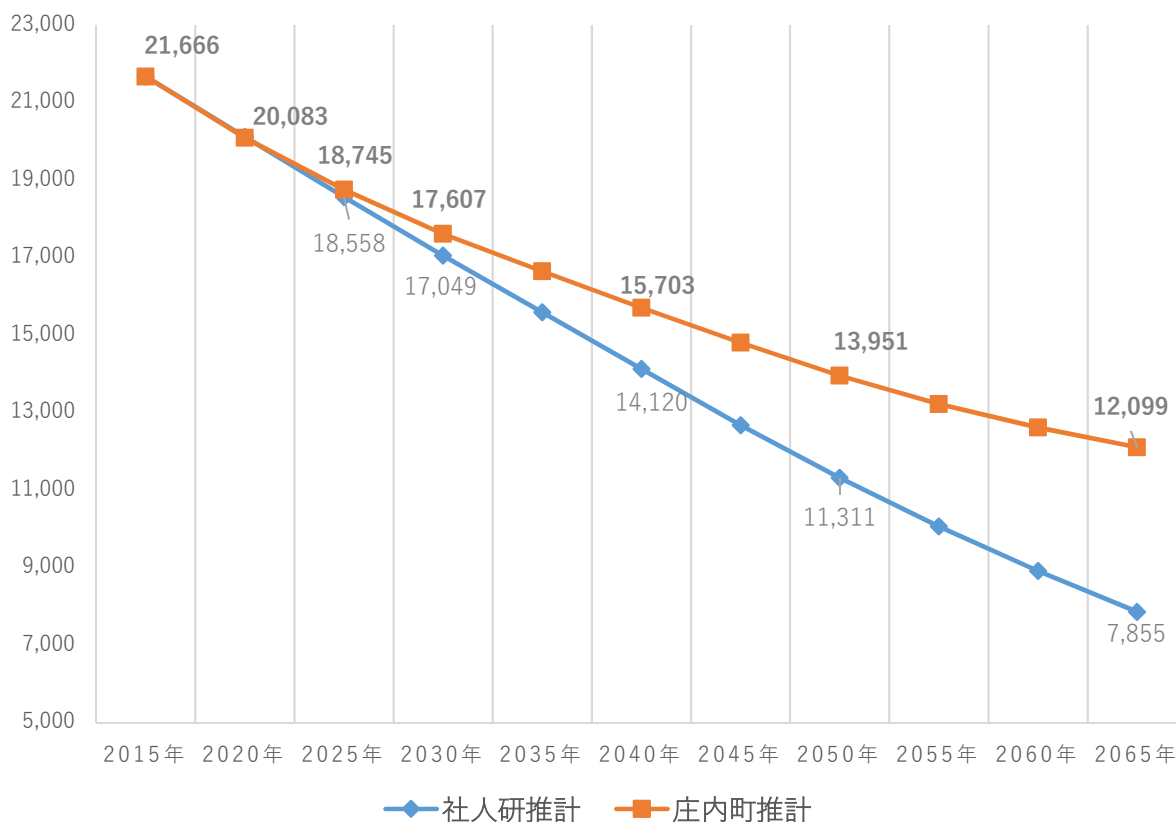
国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2025年（令和7年）の人口は18,558人、2040年（令和22年）に15,000人を下回り、その後も減少を続け、2065年（令和47年）には7,855人まで減少するとされています。

これに対し、本町の将来を展望した独自推計では、2065年（令和47年）を12,099人とし、効果的な施策を継続的に行うことによって、人口減少率が低下し、予測結果を上回る人口の確保を目指し、2025年（令和7年）の人口目標を19,000人としています。

これに対し、本町の将来を展望した独自推計では、人口減少に歯止めをかける効果的な施策を継続的に行うことにより、人口減少を抑制し、国立社会保障・人口問題研究所の推計を上回る人口を目指し、2065年（令和47年）を12,099人としています。

人口の将来展望

【単位：人】



●第2期庄内町まち・ひと・しごと創生総合戦略・人口ビジョンより
(RESAS および国配布のワークシートより作成)

(参考2) 小・中学校施設の老朽化について

庄内町では出生数が上り調子だった 1960 年代から第二次ベビーブームが終了する 1970 年代にかけて建築した小学校の老朽化が大きな課題となっています。

文部科学省が 2013 年 3 月にまとめた「学校施設の老朽化対策について」によると、全国の公立小・中学校のうち、鉄筋コンクリート造の学校施設を建て替えるまでの平均年数は 42 年となっています。庄内町では 1960 年代に余目第一・余目第二・余目第三小学校の建設から始まり全ての小学校校舎が建築後全国平均を上回る年数を経過している状況です。なお、令和 2 年度に余目第一小学校・余目第三小学校は**全面全体**改修に適さないと判断**されており、されたので**近いうちの建て替えが必要です。

維持費用を**抑えながら削減しながら**、将来にわたって子どもたちの学校における安全を確保するとともに、未来の教育活動に対応できるよう教育環境を充実させていくためには、老朽化の課題を早急に解決しなければなりません。建て替えや**全面全体**改修する学校施設の優先順位を検討し、計画的に実行していく必要があります。

仮に小学校全てを建て替える場合、教育委員会では、体育館も含め（余目第四小学校体育館は除く）約 72 億円が必要になると試算しています。小学校全てを**全面全体**改修する場合には（余目第一・余目第三小学校は建て替え、余目第四小学校体育館は除く）約 56 億円が必要と見込んでいます。

なおまた、中学校は経過年数がそれほど経っていないため**全面全体**改修（余目中学校約 17 億円、立川中学校約 8 億円）をすることにより今後も長く**使っていくことも可能使っていく**と見込んでいます。

施設の建設年・経過年数について

施設名	校舎建設年		経過年数	屋内体育館建設年		経過年数
余目第一小学校	1963年	昭和38年	59年	1966年	昭和41年	56年
余目第二小学校	1964年	昭和39年	58年	1966年	昭和41年	56年
余目第三小学校	1964年	昭和39年	58年	1966年	昭和41年	56年
余目第四小学校	1976年	昭和51年	46年	2010年	平成22年	12年
立川小学校	1973年	昭和48年	49年	1974年	昭和49年	48年
余目中学校	1986年	昭和61年	36年	1986年	昭和61年	36年
立川中学校	1995年	平成7年	27年	1995年	平成7年	27年

※最も古い校舎の年を基準としている。

地域における学校の役割について

問5：あなたは学校施設の役割として、町内の小・中学校に、どのような役割を望みますか。
(〇はいくつでも)

- (1) 子どもたちの学びの場
- (2) 子どもたちの放課後の居場所・活動場所
- (3) 地域の防災拠点
- (4) 地域の活動・交流の拠点
- (5) スポーツ活動の拠点
- (6) 文化活動の拠点
- (7) 生涯学習の拠点
- (8) 子育て支援の拠点
- (9) その他 ()

子どもの教育活動の場として

問6-1：あなたは町内の小・中学校に、特にどのような学習環境を望みますか。(〇は2つまで)

- (1) ゆとりある広さの教室環境
- (2) 充実した図書環境
- (3) 充実したコンピュータ等の ICT 設備
- (4) 多様な学びができる校舎設備 (グループ活動ができるオープンスペースなど)
- (5) 安全で快適に過ごせる学習環境 (バリアフリー化など)
- (6) 思いっきり運動できる体育館やグラウンド

※上記の他に学習環境として望むものがあれば以下の欄にご記入ください。

問6-2：学校は学力を定着させる場であるとともに様々な学びの場でもあります。あなたは町内の小・中学校に、子どもの教育活動の場として特にどのようなことを望みますか。(〇は2つまで)

- (1) 学校と保護者・地域社会が連携した教育活動
- (2) 子どもたちの希望に合う部活動
- (3) 同学年多人数で広い人間関係の中で切磋琢磨できる場
- (4) 同学年少人数で深い人間関係を築ける場
- (5) 多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会

※上記の他に教育活動の場として臨むものがあれば以下の欄にご記入ください。

小・中学校の学級数について

問7-1：小学校の1学年あたりの学級数は、何学級が望ましいと思いますか。（〇は1つ）

- (1) 1学級 (2) 2学級 (3) 3学級 (4) 4学級以上

※差し支えなければ、その学級数を選択した理由もご回答ください。

(理由：)

問7-2：中学校の1学年あたりの学級数は、何学級が望ましいと思いますか。（〇は1つ）

- (1) 1学級 (2) 2学級 (3) 3学級 (4) 4学級以上

※差し支えなければ、その学級数を選択した理由もご回答ください。

(理由：)

子どもの通学時間や通学方法について

問8-1：小学生の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。（〇は1つ）

- (1) 15分未満 (2) 30分未満 (3) 45分未満 (4) 60分未満 (5) 60分以上

※差し支えなければ、その通学時間を選択した理由もご回答ください。

(理由：)

問8-2：中学生の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。（〇は1つ）

- (1) 15分未満 (2) 30分未満 (3) 45分未満 (4) 60分未満 (5) 60分以上

※差し支えなければ、その通学時間を選択した理由もご回答ください。

(理由：)

学校施設の老朽化について

問9-1：【小学校】少子化と学校施設の老朽化が進行している状況において、**財政の健全化を進めながら限られた財源の中で**地域の拠点でもある学校施設の安全性を確保するとともに、未来の教育活動に対応できるような教育環境を充実させていくためには、どのような考え方で**学校整備** **建て替え**を進める必要があると思いますか。（〇は1つ）

- (1) 小学校すべて建て替え **又は全面改修（56～72億円程度）** ~~（余目第四小学校体育館を除く）（72億円）~~
(2) 学校数を減らして、重点的に投資して建て替える **る**（33～41億円程度）
~~(3) 余目第一、余目第三小学校を建て替え、余目第二、余目第四、立川小学校を改修（56億円）~~
(3) その他 ()

